

# 世界遺産に関わる NPO のライフサイクルの研究

## —世界遺産登録後の活動に注目して

吉村秀太

キーワード： 世界遺産、NPO、組織のライフサイクル、財務指標分析、富士山

### 1. 研究背景と目的

本研究の目的は「世界遺産登録を目指す NPO のライフサイクルは、世界遺産の登録と関係があるのか」を検証することである。主に国内の NPO のライフサイクルに関する研究を参照しながら、「認定特定非営利活動法人富士山クラブ」を対象に検証を行う。更に論文の後半では世界遺産登録後に注目し、なぜ富士山クラブは活動を続けることが出来ているのかを分析することで、世界遺産に関わる NPO が存続しうる要因を明らかにする。

### 2. 研究方法

#### (1) 財務指標分析

馬場・山内（2011）における NPO の成長モデルを用いて、富士山クラブのライフサイクルについて財務指標分析を行う。更に、富士山クラブに対して行ったインタビュー調査をもとに、補足的な検証を行う。

#### (2) 内部要因と外部要因

富士山クラブが、世界遺産登録後も衰退せず、むしろ活動を拡大できた要因を、内部要因と外部要因に分けて検討した。具体的には、①マネジメントの成功、②行政との関係構築、③他の NPO の状況、に着目した。

### 3. 研究結果

#### (1) 財務指標分析

富士山クラブにとって「世界遺産化」はあくまで中間目標であり、登録後も役割を失わなかった。ただし、NPO の発展に対して「世界遺産化」は非常に大きく影響しており、団体の急激な成長を可能にする一方で、登録後に収入の大幅な減少を起こしうる。

#### (2) 内部要因と外部要因

富士山の世界遺産登録後、行政との協働事業が増加したことが、事業収入増加の最大の要因となった。行政との対等な関係を実現できたのは、富士山クラブの自律性・専門性の高さ、担当者の質、ライバルの不在が要因であった。